

## 令和3年度 特色ある区づくり事業 委員アイデア及び担当課の考え方一覧

提案者	整理番号	提案内容	担当課	担当課の考え方
総務部会	1	<p>【地域課題】 区内で実施される行事・イベントの参加者や見学者が少ないのは、区民がどのような行事・イベントが行われているか知る機会が少ないためと考えられる。行事に参加し交流することで、区民の絆が深まることから、広報活動を充実させることが必要。</p> <p>【提案】 西蒲区行事・活動カレンダーを作成し、全戸配布する。 各種団体(区役所・出張所・自治協・コミ協・地域団体など)が行う行事・活動をカレンダーにまとめ、区民が年間を通して区内の行事日程をつかむことができる。</p>	・地域総務課 (地域・安心安全G)	<p>区内で行われる祭り等の行事については区だよりやSNSなどにより発信を行っています。既存の広報ツールを区民の皆さまに十分活用していただけるよう、今まで以上に内容を充実させていきたいと考えています。</p> <p>また、5つの町村が一つとなってできた西蒲区において、一体感の醸成は重要な課題の一つと認識しています。</p> <p>例えば西蒲区の四季折々の風景や行事などの写真を区民から募集し、カレンダーを作成する方法もあります。西蒲区の魅力の再発見につながる企画となり、自治協委員が主体となって行う「提案事業」としてもふさわしいため、カレンダー作成事業につきましてはアイデアの一つとして次期委員に申し送りしたいと思います。</p>
	2	<p>【提案】 包括的な地域の活性化</p> <p>【地域課題】 年間(冬季を除く)を通したドライブインシアターの実施運営。</p>	・地域総務課 (地域・安心安全G)	<p>ドライブインシアターはコロナ禍においてソーシャルディスタンスを確保しながら映画を楽しむ新しい試みとして、今年県内でも朱鷺メッセや道の駅あらいなどで行われています。</p> <p>しかし、自治体が行う場合、民業圧迫になる恐れがあり適当でないこと、実施・運営には相当な費用がかかることが予想されることから実施は困難と考えます。</p>
	3	<p>【地域課題】 子育て世代の定着 西蒲区ならではの豊かな自然環境や既存のハードを使い、温かい教育環境を整える。高齢者も多く、声を掛け合う西蒲区民の特性を生かし、ワンオペ育児になりにくい子育て環境づくりを目指す。</p> <p>【提案】 ①各地区にあるネットワークや若い世代向けにSNSを活用し、大規模なアンケートを実施する。(区民の声なき声を丁寧に拾う) ②西蒲区の子育て環境を「見える化」し、情報を発信する。 例:越前地区移住情報(実際に引っ越ししてきた方の体験談など) ③西蒲区の基幹図書館である西川図書館を中心に、各地区の図書館、公民館事業で子育てはもっと楽しく・深くなることをさらにPRする。 例:検診時のブックスタートから生涯本と親しむ人生のベース作り</p>	・健康福祉課 ・地域総務課 (管理財務G)	<p>○健康福祉課 【提案】①、② ・子育て世代のニーズを把握するため、平成30年12月にニーズ調査が実施され、平成31年3月に、区毎の結果を含む「新潟市子ども・子育て支援に関するニーズ調査結果報告書」としてまとめられました。</p> <p>また、各事業の実施時や保育園の入園相談を含む日々の窓口対応、母子保健に係る訪問・相談対応等において、きめ細かに区民の声をお聞きしており、引き続き、様々な場面を通じて区民のニーズを把握し、できることからその声に応えていきたいと考えています。</p> <p>・子育て支援情報については、子育てをするにあたって必要になる情報を1冊にまとめた「新潟市子育て応援パンフレット(SKIP)」を毎年発行していますが、ホームページのほか、巻地域保健福祉センターや区内に6か所ある子育て支援センター等で、西蒲区の子育て支援情報を発信しています。</p> <p>子育て支援が必要な人に情報を受け取ってもらえるには、様々な主体や媒体による、受取ってもらいたい人であった情報発信が必要だと考えており、今後も日々の業務の中で工夫していきます。</p> <p>○地域総務課 【提案】③ 西川図書館や公民館などでは、子育てや教育に寄与する様々な取組を実施しており、情報については、ホームページや区だよりなどを通じて広く発信しています。区としても、今後、さらに効果的な情報発信を目指し、図書館や公民館と連携・協力しながら取組んでいきたいと考えております。</p>
保健福祉部会	4	<p>【地域課題】 次世代の調整役(リーダー)の不足 地域のアンケートから次世代の人材育成を望む声が多数を占めていた。西蒲区でコミュニティコーディネーターの養成講座が行われていたが、機能していない。</p> <p>【提案】 ①コミュニティコーディネーター養成事業の検証 ②自治協と共に新たなコミュニティコーディネーター養成事業の開催</p>	・地域総務課 (地域・安心安全G)	<p>コミュニティコーディネーター事業(以下、CC講座)は公民館が主体となって行っている事業で、地域への声掛けなど地域総務課でも支援を行っています。より効果的な事業になるよう、実施後の講座の評価については、公民館のみならず、地域総務課でも検証を行ってまいります。</p> <p>またCC講座は事業主体が教育委員会のため、区づくり事業としては予算付けをしておりませんが、CC講座に自治協委員が受講者として参加するなどの方法も検討したいと考えています。講座終了者の活躍の場、次のステップなど、仕組みづくりについても併せて検討し、地域の人材育成や担い手不足の解消に努めます。</p>
	5	<p>【地域課題】 新型コロナウイルスによる、人とのつながりの希薄化 新しい生活様式を取り入れた日常生活と言われる今、「距離」と「オンライン」は新たなライフスタイルと言われている。また最近では「趣味人倶楽部」で35万人のシニア層が登録し楽しんでるなど、シニア層がオンラインでつながり始めた。しかし西蒲区内ではまだまだSNSやオンラインを使いこなせていないシニアが大勢いる。</p> <p>【提案】 困窮世帯や高齢者世帯等のネット環境の整備、IT機材の貸与等の検討。 (新たなつながりのツールとしてオンラインについて検討してはどうか、また困窮世帯の安否確認等が難しくなってきた今、SNS等を活用を検討してはどうか)</p>	・健康福祉課	<p>生活保護世帯においては、直接面会しての指導が必要です。ウイルス対応については電話等を活用しています。</p> <p>高齢者世帯等においても、オンラインでのつながりは今後、考えていく必要がありますが、オンラインに限らず、電話等での確認を行い、孤立化しないよう注意しています。</p> <p>まずは「新しい生活様式」における感染対策を実践しながら、今まで通り地域でのつながりを継続していくことが必要と考えます。</p>

提案者	整理番号	提案内容	担当課	担当課の考え方
	6	<p>【地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サロン等に参加しても、どこも参加者が少なく、参加者集めが大変そうな様子。運営もマンネリ化している部分がある。</li> <li>・世代間の交流がないため、建設的な考えが出てこない。</li> </ul> <p>【提案】</p> <p>地域の茶の間やサロンに助成金の支給や、運営についての支援を行う。</p>	・健康福祉課	<p>地域の茶の間やサロン事業が単調にならないよう、保健師が訪問して体操などを行い健康指導を行っています。また、平成30年度から、地域の茶の間へ作業療法士や理学療法士、音楽療法士などを派遣し、楽しく学ぶ介護予防に努めています。</p> <p>長期的に見ると、ボランティアの負担を減らし、イベントの開催有無にかかわらず、誰もが気軽に立ち寄ることが出来る「茶の間」として、継続していくことが必要と考えます。</p>
まちづくり・産業部会	7	<p>【地域課題】</p> <p>歴史と自然の資源の地であるが、全てにおいて中途半端である。どのような特色があり、どのような区にしたいかをはっきりと打ち出すべき。</p> <p>【提案】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①種まきや収穫などの農業体験を行い、収穫した農作物の提供や販売を行う。</li> <li>②区の一部感醸成に繋がる拠点づくりを、市内唯一の温泉街である岩室温泉にあるいわむろやで行い、様々な政策を行う。</li> <li>③“まち歩き区”を定着させるため、年に何十回もまち歩きの企画や情報の発信を行う。</li> </ol>	・産業観光課	<ol style="list-style-type: none"> <li>①既にイチジクや柿の収穫体験を行っており、またイモ類・枝豆については種まき～収穫まで行える体験を実施しています。食育への関心向上や農村都市交流の促進に繋がっています。</li> <li>②いわむろやでは、様々なイベントを主催するとともに、各自治会・地域団体が主催するイベントにも幅広く協力しています。引き続き、いわむろやが区内の地域を広く横断的につなげる取り組みを行うことを支援していきます。</li> <li>③まち歩きは、いわむろ案内人・北国街道まち歩きガイドの会の息の長い活動に支えられ、一昨年から他にもガイド団体が立ち上がるなど、地域に定着してきています。これからのコロナ禍におけるマイクロツーリズムにおいても地域の自然散策や歴史探訪が求められるため、様々な部署が連携して実施する必要があると考えます。</li> </ol>
	8	<p>【地域課題】</p> <p>観光資源が点在している。</p> <p>【提案】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・区内の点在する観光資源を繋ぐ、西蒲観光周遊ぐる～んバスの積極的活用</li> <li>→各停留所で小さな直売所等を出店し、バスが停留する場所の認知度を上げ、利用率向上を図る。</li> </ul>	・産業観光課	<p>・にしかん観光周遊ぐる～んバスの利用率向上は、今後の運行存続に向けて重点課題だと捉えています。そのためにはバスが停留する場所の認知度向上を図る取り組みが必要です。バス停に隣接する地元事業者と協力して乗車サービスを提供することや乗車イベントを企画することで利用率の向上に努めます。</p>
河合正士委員	9	<p>【地域課題】</p> <p>平成30年度から、角田山麓の「ほたるの里公園」周辺を新たな観光資源として開発することを目的に、角田山麓まちづくり研究会を中心に、さまざまなイベントを開催して集客を図るとともに、桜や山茶花などの植栽や「矢垂の里」等ののぼり旗設置による遊歩道整備を行い、四季を通じた賑わいスポットの創出に取り組んできている。</p> <p>しかしながら、植栽した木々や花もすぐに育つわけではないことから、継続的な整備・育成が必要であり、また、観光スポットとしての知名度向上のためには、効果的なイベントの定期的な開催が不可欠と思われる。</p> <p>【提案】</p> <p>今後も角田山麓まちづくり研究会による事業の継続が必要であると思われるが、現実的な問題として、マンパワーや財源には限りがある。また、真に交流人口の拡大や地域の活性化を目指すためには、より多くの地域住民の参画が求められることから、有志によるボランティアの育成に着手し、継続的なスポットの維持整備やさらなる誘客に向けた研究などに取り組む新たな組織体制の構築が望まれる。</p>	・産業観光課	<p>・「角田山麓まちづくり事業」により整備された「ほたるの里公園」周辺の継続的な環境整備を行うためには、提案のあったボランティアの育成、継続的なスポットの維持整備などに取り組む必要があると考えます。提案された内容については、令和3年度の西蒲区特色ある区づくり事業として取り組みたいと考えています。</p>

提案者	整理番号	提案内容	担当課	担当課の考え方
島山卓也委員	10	<p><b>【地域課題】</b>          少子高齢化の進展により人口減少の本格化は、とりわけ西蒲区の喫緊の課題である。高齢化対策は、近年、介護対策の推進、高齢者に対するデイサービス施設・活動の躍進、お茶の間サロンの拡大、老人会の活発な活動により発展充実してきている。対する少子化問題は、本質的な議論がなされていないし実現していない。「子育て」が重要と言いつつ具体案が示されていない。少子化は経済・産業のみならず、文化伝統・スポーツの活性化あるいは国力の進展に多大な影響を今後もたらすことは確実である。</p> <p>現在西川地域の0歳児～4歳児の人口は、平均15～20名、地域によっては10名未満の出生率である。原因は、人口の大都市への移動と特に出生率の低下である。なぜ出生率の低下が加速度的に進むのか？地域からは、「子づくり可能な男女が結婚しない、したくない」「独身貴族でありたい」「結婚しても核家族で子育てに自信が持てない」「出産で起きる職場の理解不足」「異性への高望み」「異性が異性への接近に消極的」「婚活は迷惑」「運よく出産しても子供は1人で十分」「西川地域に産婦人科がない、出産できた医院もなく不安」等の声が聞こえてくる。豊かな区づくりの根本は人口の増加である。人がいて初めて区の将来的な事業が展開されると考える。</p> <p><b>【提案】</b>          ①20～40代男女の結婚推進活動          ②安心して結婚生活が営まれるアドバイザー講座の開設(妊娠も含めて)          ③健やかに乳幼児を育てる見守り部隊の設置(保健師の検診と違う子育てベテラン地域住民による相談対応)          ④児童の虐待防止SOS推進事業          ⑤育児中の助成に経済的援助          ⑥魅力ある西蒲区への他地域から移住の促進(空き家・農地無償提供)          ⑦他地域からの転入者へおもてなし事業</p> <p><b>【事業の内容】</b>          ①子育てなんでもセンター「にこにこ」の設置          ②婚活世話人コウノトリ委員の設置(市の臨時職員として採用)          ③虐待している、しそうな情報ダイヤルの広報活動(市報で、SNSで)          ④一人出産につき西蒲区宝船を贈呈。10万円と記念品。          ⑤転入者への助成事業の促進</p>	<p>・地域総務課 (地域・安心安全G ・健康福祉課</p>	<p>○地域総務課  <b>【提案】①</b>  <b>【事業の内容】②</b>          こども政策課で行っている事業として「新潟市婚活支援ネットワーク」があります。これは出会い・結婚をサポートする団体及びそれらの取り組みに対してセミナーや事業アドバイスなどを行っているもので、当ネットワークに加入した団体が要件を満たした婚活イベントを行う際は市として広報に協力しています。</p> <p>この「新潟市婚活支援ネットワーク」には一般企業のほか、コミ協や自治会町内会といった地域団体、商工会などの経済団体も加入することができます。多くの団体にこの事業を活用していただけるよう、当ネットワークの周知を図ってまいります。併せて、コミ協等で婚活イベントの開催をする場合は、地域活動補助金による支援を行ってまいります。</p> <p><b>【提案】⑥⑦</b>  <b>【事業の内容】⑤</b>          地域が主体となり積極的に移住者の受け入れを行っている地区を市が「移住モデル地区」として指定し、本市への移住定住を促しています。越前浜地区はH28年度に新潟市指定移住モデル地区(ハッピーターンモデル)に認定されており、定住促進のための補助メニューを活用しています。</p> <p>人口減少については地域産業の活性化や地域を担う次世代の育成、公共交通、地域の魅力発信など様々な視点から総合的に考えていく必要があります。引き続き、移住定住の促進や交流人口の拡大について検討を進めてまいります。</p> <p>○健康福祉課  <b>【提案】②③</b>          学童へ妊娠・出産等に関する正しい知識の取得のために、ライフプラン教育を学校と連携し実施しています。</p> <p>安心して結婚生活を送るために、区役所内に妊娠・子育てほっとステーションを置き、いつでも相談に対応しているほか、保健師の家庭訪問で随時相談できる体制ができています。また、不妊治療助成や妊娠中のママパパへの教室、にいがた子育て応援アプリ等の紹介をしています。</p> <p>出産後は、子育ての情報交換や親子の交流の場として、各地区の子育て支援センター、サークル等があり、育児相談ができる体制です。地域住民による相談対応については、地域の共助体制などが課題と考えます。</p> <p><b>【提案④⑤】</b>  <b>【事業の内容】①③</b>          ・児童の虐待(かもしれないを含む)を見つけたら、児童が虐待にあつたら、全国共通ダイヤル「189(いちややく)」の3桁をダイヤルするだけで、住んでいる地域の児童相談所につながります。</p> <p>このダイヤルはH27から導入されていますが、学校において児童自身にも周知されるなど、徐々に浸透してきており、児童相談所への通告も増加しています。</p> <p>・区内に6か所ある子育て支援センターでは、親子遊びなどの催し、フリースペースの開放のほか、保育士や保健師による子育て相談なども行っています。</p> <p><b>【事業④】</b>          本市においては、出産前、出産後に様々な支援を行っており、一時金は考えていません。</p> <p>妊産婦(出産後を含む)に対し、こども医療費助成やすこやかパスポートの発行や、ごみ袋の交付等の支援をしています。</p> <p>また、出産時の一時的な支援に止めず継続的な支援が必要なことから、区づくり事業において、NP・BPプログラムを実施し、自分らしい子育てをサポートするほか、区内小中学校で行う子育て体験教室を通して、命の大切さや出産・育児の楽しさの機運醸成をしています。</p>

提案者	整理番号	提案内容	担当課	担当課の考え方
	11	<p><b>【地域課題】</b>            新型コロナウイルスの終息が見えない中、教育現場はかつてない異常事態に追い込まれている。児童生徒・教職員は、例え早々にワクチンが見つかり、コロナウイルスが終息したとしても、心に受けたダメージは限りなく大きい。まして、2年度から導入されたプログラミング学習(IT学習)、英語、道徳といった新しい教科の導入に児童生徒も教員も戸惑いがちでゆとりのない学習を進めようとしている矢先で突然の臨時休校、その後の時数確保の悪戦苦闘。また、児童生徒が学校生活での最大の感動を起こす、修学旅行、運動会、音楽祭、文化祭等の中止。夏休みになっても不要不急の外出の自粛。青空の下、戸外で歓声をあげてスポーツに、自然の中での多様な遊びに熱中する子供の姿が全く見られない。教職員も心身とも疲弊している。子供はほとんど家庭に閉じこもりスマホやテレビゲーム等に没頭。(新しいいじめ問題も起きている)</p> <p>こうした状況で、市教委の教育ビジョンの表題「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」は達成できるのか、疑問に思う。</p> <p>小中学時代、叱られ失敗もした、冒険や遊び、運動会や修学旅行、学ぶ意欲をもって取り組んだ学習、学芸会・音楽会等の情操教育。これらが土台となり西蒲区の先人は心豊かにたくましい人間力を持った大人になったはずである。以上の教育課題から、西蒲区の子供たちに今年失った情操教育を実施し、未来の区づくりの先頭になってほしいと考える。</p>	地域総務課 (管理財務G)	<p>・ご提案は、学校や教育委員会の所管する教育分野に係る取組であり、区づくり事業では対応できません。なお、いただいたご提案については、参考意見として教育委員会の担当課にお伝えいたします。</p>
	12	<p><b>【地域課題】</b>            西蒲区は、角田山や越後七浦海岸といった風光明媚な自然や、西川や中ノ口川などに育まれた広大な水田地帯に囲まれた自然豊かな土地である。しかし、その魅力に区外の人だけでなく、地域住民も気づけていないように感じる。</p> <p><b>【提案】</b>            西蒲区の自然・良さを区内外にPRするため、各地点の航空写真を撮影し、写真集を発行する。</p>	産業観光課	<p>・各地点の写真素材について、専門家による撮影委託のほか、毎年行われる巻観光協会・岩室温泉観光協会主催の観光写真コンテストの入選作品を活用するなど随時、魅力的な写真素材を集め、広くPR素材として活用しております。航空写真についても必要に応じて収集し、今後も写真を通じて、西蒲区のPRに努めます。</p>